



ベンチャー SPIRITS 2011 in 東京

中小機構

抄録

2011・2・16 WED. 六本木ヒルズ 森タワーアカデミーヒルズ 49F

「独創・挑戦・情熱」をキーワードに今年度からスタートした創業促進イベント「ベンチャー SPIRITS」。名古屋、大阪に続いて今年度最後の催しが2月16日、東京・港区の六本木ヒルズで行われた。日本経済の低迷とともに「ベンチャー魂」が希薄になりつつあるといわれている。だが、東京では「Japan Venture Awards」や「大学発ベンチャービジネスコンテスト」など多彩なイベントに500人を超える来場者が押し寄せ、会場は熱気に包まれるとともに、ベンチャーブーム再来を予感させた。次回開催を望む声も多く、会場に集結したベンチャー経営者やその予備軍が日本に元気をもたらせてくれる日も遠くはなさそうだ。

主催：独立行政法人 中小企業基盤整備機構

後援：経済産業省中小企業庁、独立行政法人産業技術総合研究所、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、独立行政法人情報処理推進機構、独立行政法人科学技術振興機構、株式会社日本政策金融公庫、全国商工会連合会、公益社団法人経済同友会、日本商工会議所、東京商工会議所、日本ベンチャー学会、財団法人ベンチャーエンタープライズセンター、社団法人日本ニュービジネス協議会連合会、社団法人関東ニュービジネス協議会、全国地方新聞社連合会、社団法人日本ベンチャーキャピタル協会、東京中小企業投資育成株式会社、大阪中小企業投資育成株式会社、名古屋中小企業投資育成株式会社（限不同）

■ 基調講演

“ビジネスチャンスを掴みとれ! - “食”と“人”をつなぐ 社会を創造する「ぐるなび」の挑戦! 「企業理念を大切にすることで、苦しい場面も乗り切れる」

ベンチャーして40年を超えた。大学を卒業して三菱系のメーカーに4年いたが、高度経済成長の勃興期にあえて起業家を目指してみようと会社を辞めた。

インターネットは、リアルタイムの情報コストを2けた下げた。“情報系の産業革命”が起こると確信した。マス4媒体に比肩するメディアを作りたいという想いでそれまでに培った技術的なノウハウや人的体制を持っていたこともあり、毎日の集客に使える効果的な販促メディアを持たない外食業界に特化して“情報問屋”になろうとすぐに決めた。

外食は毎年約10%が廃業し、約10%が生まれる。そういう中であって外食の情報問屋になるには、検索プラットフォームなどからなるICT系の「オンラインのインフラ」とは別に、営業やコールセンター、ぐるなび大学など営業を中心とする1,000人体制のぐるなびオリジナルな「オフラインのインフラ」も欠かせない。このオフラインのインフラでは、顧客との人的関係である「絆」を構築・維持するインフラであり、

1日1万店、10日で10万店のお店とコンタクトできる能力を持っている。

「ぐるなび」は外食の「オフィシャルサイト」であり、お店がいつでもメニューなどの情報を自由に換えられる仕組みを提供している。お店はリアルタイム性も含めた自店の“ウリ”を徹底的に表現できる。「ぐるなび」によって、「ウェブでお店の情報を見てから外食に行く」という生活スタイルを定着させた。ぐるなび会員は750万人を、月間ユニークユーザーは2,300万人を超えた。現在は「第二創業期」として、会員との関係を強化するための施策等にも力をいれている。

また、食材の産地とこれまでに築いてきた絆をもとに、ぐるなびのオンラインとオフラインのインフラをベースにした事業も次々に展開。産地の生産量の拡大のための「地産地消」プロジェクトや、加盟店のシェフを食材の産地に案内し、その食材を使った新メニューの開発等につなげる「食材探しツアー」の企画・実施等々、今日の日本にとって喫緊

の課題である「農漁業の産業化」実現の必ずや一助となるプロジェクトにも取り組んでいる。

創業者というのは孤独だ。ビジネスモデルを構想、構築、そして具現化していく過程ではお金がかかり、社員にも構想を共有して一緒に頑張ってもらわなければならない。そこで大事になるのが「企業理念」だ。ビジネスの随所に出てくる二者択一を迫られる苦しい場面を乗り切るためにも欠かせない。

自説ともいうべきベンチャー成功の12カ条の中から、そのいくつかを紹介すると「夢と執念を持続する」「時代を読む目を持つ」「企業のもっとも重要な4つの要素は顧客、社員、社会性、株主である」など。その中で「大手参入に対する備えを怠らない」は、絶対だ。事業性が見えた瞬間に大手は参入してくる。ベンチャーのつらいところで、追いつかれなくないようにすることが大事。事業を創造して雇用を作り、自ら進化を続け、永久に生きられる会社になりたい。



(株)ぐるなび 代表取締役会長・創業者
(株)KKB 代表取締役社長

久雄 氏

1963年東京工業大学卒業。東京大学生産技術研究所顧問研究員等歴任。現在、東京工業大学大学院客員教授、東京藝術大学経営協議会委員、国土交通省VISIT JAPAN大使等。主な受賞歴に1999年交通文化賞、2008年社団法人日本広告業協会功労賞、経済産業大臣賞、2009年財界研究所経営者賞、2010年情報通信月間総務大臣表彰、第10回ポーター賞等。著書に「貢献する気持ちーホム・コントロールビューエンスー」(紀伊國屋書店)、「ぐるなび「No.1」サイトへの道」(日本経済新聞社)他多数。

応援メッセージ



ダイヤル・サービス(株)

代表取締役社長 今野 由梨 氏

「他の人生では味わえない達成感」

女性ベンチャー第1号と言われ43年になる。どんな時代でも“やった者勝ち”。ベンチャーの道には限りないチャレンジと失敗の連続が待っている。しかし、他の人生では味わえない感動と達成感がある。持てる力を完全燃焼させて、社会のために貢献して欲しい。100年に一度の危機こそ、チャンスとチェンジの時。



ジャーナリスト・キャスター
信州大学経営大学院
客員准教授

三神 万里子 氏

「地域の独自性を世界目線へ」

日本は、各県のGDPが他国の一國分を凌ぐ。これは過去の起業家が築いた基礎のおかげだ。我々の使命は今、漠然と悲壮感に浸ることではなく、この財金を未来につなげる具体策を地域から生むことだ。地域の独自性を世界目線のシステムに乗せることだ。



プライスウォーター
ハウスクーパーズ(株)
ディレクター

原 誠 氏

「連携が日本の未来を拓く」

「SPIRITS」は「魂」、「矜持」と言い換えてもいい。今回ものづくりにこだわる社長の矜持や転機、出会いと連携について掘り下げる。新しい連携が生まれ、日本の未来を拓く一助になればと思う。第二創業は仕事自体のおもしろさ・リアルizm・連携がキーワード。出会いを活かすための経営者自身の志や矜持といった準備も大切だ。

■ パネルディスカッション

社会を変えるベンチャーSPIRITS! ~若き経営者が描く日本の未来、新しい社会



パネリスト

「人生を賭けている人を支える、小口ファンドを構築」

ミュージックセキュリティーズ(株) 東京都

代表取締役 小松 真実 氏

「もっと自由な音楽を」と考え、アーティストのために資金調達ができる小口ファンドの仕組みを作った。その後、純米酒の酒造ファンド、ジンズファンド、林業ファンドなど約100のファンドを立ち上げている。本当にこだわりをもって人生を賭

けている人たちの想いに、個人のの方々が共感していただくことによって挑戦する武器を作って行きたい、と思ったのが起業のきっかけ。アルバイトで資金をため、合資会社から始めた。現在、あらゆる分野でポータルサイトのようなプラットフォーム

にしていこうと、「セキュリティ」というサイトを興している。本日モデレータをされている藤野さんに出会い、創業の後押しや資金調達など支援してもらった。信頼して相談できる人を見つけるのも成功の要素だ。

「感謝や期待が実現の原動力となり、楽しい世界へ」

(株)HASUNA 東京都

代表取締役 白木 夏子 氏

発展途上国からのフェアトレードによる素材の調達を行い、エシカルなジュエリーの製作・販売を行っている。エシカルは「人や自然に優しい」という意味。発展途上国の貧困層の職人たちが苦しんでいる現状への創作活動や技術指導を行い、雇

用創出へつなげようと働きかけている。学生時代にNPO・NGOや国連のインターン、インド鉱山の村での滞在などを経て、発展途上国の貧困層の人たちが苦しんでいる現状に対して「このままではいけない」と

思い、金融業界で働きながら起業を志した。資金調達は本当に大変だったが、自分の好きなことを追求していくと、感謝の気持ちや期待を集められる。楽しい世界が待っていると思う。



「日本の農業を変革することが、自分の天命と思った」

(株)みやじ豚 徳島県 代表取締役社長、NPO法人農家のこせがれネットワーク 代表理事 CEO 宮治 勇輔 氏

湘南で家族経営の養豚業を営んでいる。パーベキューイベントを開催することでお客を獲得し、インターネットで販売。さらにレストランを紹介してもらうなど、口コミで販路拡大している。農業以外で起業したいと思って

いた。しかし、農業を知るほど、日本の農業を変革するのが天命だと感じて家業を始めた。みやじ豚だけでなく一次産業を「かっこよく・感動があって・稼げる」3Kにするため、「農家のこせがれネットワーク」というNPOも立ち上げた。

父親の養豚業を法人化したので、厳密にはゼロからの創業ではないが、企業は続けていくことが難しい。一生をかけても人生悔いなしと思える分野を見つけて起業すれば、最高の人生だ。

「挑戦心のある人には、やりがいのある時代に」

レオス・キャピタルワークス(株)

取締役 CIO 藤野 英人 氏

ベンチャー市場はブームが来たり、去ったりだが、日本はベンチャーが生まれにくい風土にあるとも言われる。実際に少子高齢化で創業する力が弱まっており、廃業する数の方が創業の数を上回る状態が続いている。

とはいえベンチャーを取り巻く環境は若干だがよくなっていると感じている。世界経済が少し上向き、日本も一時の危機的状況から脱した。金融機関の貸し出し姿勢も変わってきた。起業家の特性のひとつに、次々

に来る困難を受け止めて、それを乗り越え、ある種の楽しみに転換していくようなところがある。本当に挑戦しようという人にはやりがいのある時代になってきたのではないと思う。

